

(別添2)

No.	7
策定年月	令和3年5月
見直し年月	令和 年 月

麦・大豆産地生産性向上計画
美里産地
(作成主体:美里地域農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

美里地域農業再生協議会は、主食用米の需要減少の潮流のなか、水田フル活用による収益性の高い農業の実現のため、農作物の需要に応じた生産として土地利用型野菜の生産拡大のほか、堅調な国内需要がある麦・大豆の生産拡大を推進してきた。

このようななか、水田麦・大豆産地生産性向上事業を通じ、麦・大豆の生産拡大及び団地化の推進並びに新たな生産技術の導入を促進し、収量と品質の高位安定化と生産性を高めるとともに需要に応じた生産拡大による産地強化を図る。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

麦については、シラネコムギと夏黄金の2品種が生産されており令和2年度の生産量は約1,140tである。夏黄金については、パン用、めん用の主力品種であった「ゆきちから」と比較し製パン適性が高い品種となっており、JAを通じて実需者に流通し需要の拡大が見込まれる品種となっている。

大豆については、ミヤギシロメ、タチナガハの2品種が主に生産されており令和元年度の大豆全体の生産量は約1,054tである。近年はミヤギシロメが豆腐メーカーからの需要が高く、実需者からはさらなる増産が求められている。

国内需要が堅調な麦、大豆は、生産面積拡大に向けた作付誘導を図るとともに、品目別の需要動向も考慮した作付け振興が必要である。産地としては実需者ニーズに即した生産、安定供給が肝要であるため、継続的に生産振興を図る必要がある。

(2) 生産における現状と課題

米の需要量減少に対し、当地域では、水田フル活用による、麦、大豆及び高収益作物の生産振興を進めている。大豆の作付面積は増加傾向にあるが、麦の作付面積は横ばいで推移している。また、麦、大豆ともに県内でトップレベルの単収となっている。

麦・大豆の国内需要へ対応するため、作付面積の拡大による増産を図るとともに、生産性の向上のための団地化率の向上、機械化や新技術の導入の促進が必要である。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	シラネコムギ	(163) 163	(158) 166	(133) 133	(396) 396	(418) 418	(405) 405	(645) 645	(660) 694	(539) 539
	夏黄金	— —	(133) 133	(166) 166	— —	(398) 398	(362) 362	— —	(529) 529	(601) 601
大麦										
作物計		(163) 163	(291) 299	(299) 299	(396) 396	(409) 409	(381) 381	(645) 645	(1,190) 1,223	(1,140) 1,140

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆	一括	(456) 456	(521) 521	(538) 538	(193) 193	(197) 197	(196) 196	(880) 880	(1,026) 1,026	(1,054) 1,054
作物計		(456) 456	(521) 521	(538) 538	(193) 193	(197) 197	(196) 196	(880) 880	(1,026) 1,026	(1,054) 1,054

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	シラネコムギ	143	87.7%	150	94.9%	106	79.7%	
	夏黄金	—	—	111	83.5%	144	86.7%	
大麦								
作物計		143	87.7%	261	89.7%	250	83.6%	

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	一括	376	82.5%	370	71.0%	444	82.5%	
作物計		376	82.5%	370	71.0%	444	82.5%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

宮城県で推進を行っている団地の基準は、平坦地で4ha以上とし、農地の集約に制限がある中山間地については1ha以上としている。

なお、本町は中山間地に該当しないため、4ha以上の農地を団地とする。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。